

Contents *****

特集：共和党予備選、序盤 2 州が教えること	1p
<海外報道ウォッチ>	
ニッキー・ヘイリー候補の現在位置	7p
<From the Editor> 岸田さんは怖い	9p

特集：共和党予備選、序盤 2 州が教えること

1月15日にはアイオワ州党员集会、23日にはニューハンプシャー州予備選挙が行われました。米大統領選挙の不思議なところは、この序盤 2 州の戦いが終わると、いっぺんに景色が変わって見えることです。生き残ることができた候補者は、2つの州の結果が発するメッセージを受け止めて、今後の戦略を再検討していくことになります。

今回の結果が示したのは、「トランプ前大統領はやはり強い」ことでありました。ただし、今すぐ選挙戦が終わるわけでもない。この先も不透明な戦いは続くし、そのことはいろんな方面に影響を与えていくはずです。日本から見ているわれわれとしては、「もしトラ」リスクをどう受け止めるかが、検討事項ということになります。

●予備選プロセスを「箱根駅伝」に喩えると…

米大統領選挙における2つの序盤州、アイオワ州 (IA) とニューハンプシャー州 (NH)は、箱根駅伝に喩えれば「花の2区」といったところであろう。

1区を終えた鶴見中継所では、走者はまだ一団となっている。それが2区になると走者の列は縦に伸び始める。2区は距離が長く、横浜の市街地を走る所以沿道の観客も多い。最後は難所と呼ばれる権太坂があり、先頭走者が戸塚中継所にさしかかる頃には、得てしてドラマが生まれる。アッと驚く「ごぼう抜き」が語り草になることもある。

それと同じように、IA州とNH州は過去に多くの名勝負を繰り広げてきた。多くの候補者が選挙活動を展開するが、いずれも小さな州なので、資金量が乏しくてもその気になれば「ドブ板選挙」で州内に浸透することができる。両州の有権者はそれぞれに候補者を吟味して、ときには意外で、後から考えれば「味わい深い」順位を与える。

予備選全体における位置づけは、「弱い候補者を足切りすること」である。ここを勝ちぬくことができた3~4人の候補者が、今度は西部や南部での試練に臨むことになる。

○2024年の序盤戦2州の結果

	IA (Jan.15)		NH (Jan. 23)	
	得票数	得票率	得票数	得票率
トランプ	56,243	51.0%	176,004	54.6%
デサンティス	23,491	21.2%	2,236	0.7
ヘイリー	21,027	19.1%	140,096	43.2%
ラマスワミ	8,430	7.7%	撤退	撤退

上記が今年の「花の2区」の結果である。現職大統領が出ているときは別にして、フロントランナーの得票率が5割を超える、なんてことは滅多にあるものではない。初めて大統領選に出馬した2016年のドナルド・トランプは、IA州は24.3%で2位、NH州では35.2%で1位になったものだ。普通の年は、そのくらいの数字に落ち着くものである。

その点、今年のトランプ氏は「事実上の現職候補」と考える方が良さそうだ。IA州直前にクリス・クリスティーが戦線離脱し、IA州の後にはヴィヴェック・サマスワミとロン・デサンティスが選挙運動を停止した。NH州ではニッキー・ヘイリーだけが対抗馬となり、終了後は彼女に対しても「撤退圧力」がかかっている。異例の展開と言えよう。

とはいえ、戸塚中継所で箱根駅伝が終わってしまっただけでは話にならない。3月5日のスーパーチューズデーが小田原中継所だとしたら、そこから先は「山登りの5区」が控えている。トランプ氏にとっては、4つの刑事事件の裁判が始まる時期である。そこから先は、「裁判を戦いながら選挙戦を行う」という過酷なレースが待っている。裁判にかかる費用も巨額になるはずだ。トランプ氏としては、なるべく早くヘイリー氏に撤退してもらいたい。後々のために、できるだけ資金を残しておきたいところであろう。

<今後の共和党選挙戦日程>

2月8日	ネバダ州党员集会
2月24日	サウスカロライナ州予備選挙
3月4日	①ワシントン連邦地裁で「1月6日事件」初公判→4月中旬に遅延？
3月5日	スーパーチューズデー（15州で開票→1日で36%の代議員が決定）
3月12日	GA/MS/MO/WA 予備選挙
3月19日	AZ/FL/IL/OH 予備選挙
3月25日	②ニューヨーク地裁で「口止め料事件」初公判
4月23日	DE/PA/RI 予備選挙
5月20日	③フロリダ州連邦地裁で「機密文書事件」初公判
期日未定	④ジョージア州地裁で「ジョージア州事件」初公判
7月15-18日	共和党全国大会（ミルウォーキー/ウィスコンシン州）

序盤2州が伝えるもうひとつの重要なメッセージは、「今年は事前の世論調査通りの結果が出た」ことである。2016年には「トランプ支持者は正直に答えてくれない」ことが問題となったが、2024年ともなると「今さらもう隠し立てする必要はない」らしい。選挙を観察する側としては、「今年の世論調査は信じていい」というのは朗報である。

●「トランプ対ヘイリー」の戦いが意味するもの

NH州予備選終了後、11p 差で敗れたヘイリー氏の演説を聴いて唸ってしまった¹。

「ニューハンプシャー州は全米で最初の州であって、最後の州ではない。この戦いは終わるどころではない (This race is far from over.)。まだまだ何ダースもの州が控えている。そして次の戦いは、わが愛しのサウスカロライナ (SC) 州なのだから」

普通に考えれば彼女の勝ち目は薄い。詳しくは本号の「海外報道ウォッチ」をご覧ください。今年、今年の共和党員は「とにかくトランプを勝たせたい」と思っている。そして1 か月後に控える彼女の地元、SC 州は南部の典型的な「トランプ州」である。本日時点の RCP 調査 (10/18-1/3) ²によれば、SC 州ではトランプ 52.0%、ヘイリー21.8%と約 30 ポイントもの差がついている。

ヘイリー氏が代表するのは、伝統的なレーガン流の共和党路線である。ディック・チェイニーの対外介入主義、ミット・ロムニーの小さな政府などは、「今どき流行らない」。トランプ氏が掘り起こした「新しい共和党」路線の方に勢いがある。既に戦線を離脱したデサンティス氏やラマスワミ氏も、タイプとしてはこちら側に属する。

古い共和党 (レーガン流)	新しい共和党 (トランプ流)
小さな政府 (歳出削減) 国際的な指導力、同盟重視 (介入主義) 自由貿易、 プロ・ビジネス	大きな政府 (歳出拡大) アメリカ・ファースト (内向き) 反自由貿易、移民対策 反エリート、反知性主義
財界の支持	労働者の支持
クリス・クリスティー元州知事 マイク・ペンス元副大統領	ロン・デサンティス州知事 ヴィヴィック・ラマスワミ ティム・スコット上院議員

それでは彼女にはまったく見込みがないか、と言えはそんなこともない。何しろ 4 つの刑事裁判が控えており、トランプ支持者の中にも一定の割合で「有罪判決が出れば投票しない」との意見が存在するからだ。

これが最近の将棋中継のように、AI による評価値があるとしたら、「トランプ 85% 対ヘイリー 15%」といった残酷な数値が示されてしまうだろう。ただし将棋の対局と同様、対局者の差し手にミスがあれば数値は大きく動く。そしてトランプ氏は、「山登りの 5 区」で躓くかもしれない、あるいは復路で息切れする (資金不足になる) かもしれない。

幸いにも ヘイリー氏は、メガドナーと呼ばれる大口献金者のお陰で資金には不安がない。となれば、「行けるところまで行ってみる」ことが合理的な選択となる。

¹ <https://www.youtube.com/watch?v=y-Muy-RHGU4>

² <https://www.realclearpolling.com/polls/president/republican-primary/2024/south-carolina>

そして実際のところ、トランプ氏には裁判以外にも「ツッコミどころ」がある。

- * バイデン大統領と4つしか違わない高齢（77歳）である。
- * 情緒的に不安定であり、最近は勘違いや言い間違いも増えている。
- * 2018年や2022年の中間選挙などで、「不適切な候補者」に肩入れして負け続けている。

もうひとつ興味深いのは、トランプ対ヘイリーの戦いによって、共和党内の「新旧勢力図」が可視化されることである。序盤戦2州の結果は、「保守的なIA州ではトランプ氏が圧倒的、中道派が多いNH州でもややリード」というものであった。今後、全米各地でどのような結果が出るのか、注目したいところである。

また共和党としては、最終的には団結して民主党と本選挙を戦わねばならない。どういうタイミングで両者が「和解」するかも、今後の見どころのひとつということになる。

●既に始まっている「もしトラ」リスク

さて、今年はしみじみ米大統領選挙に対する関心が高いようである。「もしトラ」（もしもトランプが当選したら…）という言葉もよく耳にする。ただし気になるのは、「もしトラ」によるリスクを、「大統領選挙でトランプ氏が当選し、来年以降の米国政治が視界不良になること」と捉えている向きが少なくないことである。

「もしトラ」リスクは、「いまそこにある危機」と考えた方がいい。近いところでは、序盤2州の結果がトランプ氏の圧勝で終わったからには、今後の「ウクライナ支援予算」の成立が難航することが予想される。

米国のウクライナへの支援予算は、昨年末にはほぼ枯渇してしまい、追加予算が必要になっている。共和党の賛成を得るために、法案にはイスラエル支援や台湾支援の予算が加えられ、国境警備の予算増額なども抱き合わせにして、総額1110億ドルにまで膨れ上がった。早く通さないと、ウクライナの戦線維持にも支障が生じかねない。しかるに米連邦議会は、あいかわらずの混乱状態にある。

先週1月19日にはCR（つなぎ予算）の期限が到来し、政府閉鎖を回避するために議会は3度目の延長を決めた。国防や交通関連の予算は3月1日まで、その他の予算は3月8日まで期限が伸びた。オバマ政権の頃にも同様の事態が頻発し、“Kick the can down the road.”（問題の先送り）が批判されたことを思い出す。

問題は共和党内の保守強硬派議員団、フリーダムコーカスが頑なになっていることだ。ひとつ間違えば新任のマイク・ジョンソン下院議長のクビが飛び、またまた議長不在で議会が空転することになる。

そんな中でトランプ氏がSNSで、「国境警備の取引には万全を期すべきだ」「素晴らしいジョンソン下院議長が、完璧な協定を結ぶと信じる」などと発信している。これではますます、フリーダムコーカスが強硬姿勢になってしまう。

トランプ氏が来年、大統領になった後の心配は既にいろんなところで論じられている。外交では NATO からの脱退、更なる対中強硬姿勢、いや、むしろ習近平氏と「グランド・バーゲン」に走る可能性もある。何しろ「予測不可能性」(Unpredictability)をみずから最大の武器と心得ている人である。何をやってくるかわからない。同盟国としては、非常に困ったタイプの指導者と言える。

あるいは、気候変動政策を大転換するのではないか(パリ協定を再離脱?)といった懸念もある。現実的なところでは、バイデン政権下で成立した IRA (インフレ抑制法案) による EV 製造などへの補助金が、打ち切られてしまうかもしれない。多くの外資が既に北米での投資・製造を決めた後だけに、悩ましい事態となりそうだ。

経済政策としては、トランプ減税の恒久化や関税引き上げなどが優先課題となりそうだ。しかし現状の人手不足の米国経済でそれを実施すると、インフレが再燃してしまうのではないか、と言った問題もある。

しかるに「もしトラ」は、そんな悠長な話ではない。来年、トランプ氏が大統領になれば、ウクライナ支援は停止されてしまうだろう。そのことは戦況に決定的な打撃を与えかねない。逆に言えば、プーチン大統領はそれを楽しみにしているはずである。

今年の NATO 首脳会議は、7月9～11日にワシントン DC で予定されている。欧州の首脳にとって最大の懸念は「もしトラ」ということになるが、バイデン大統領はどんな形で彼らの不安に応えるのであろうか。

●ウクライナ戦争は止められないか？

「もしトラ」を前提として、逆に利用することはできないだろうか。つまり「トランプを『カード』として使う」可能性はないだろうか。

1月20日の朝日新聞「オピニオン&フォーラム」欄では、石井正文元インドネシア大使が「ウクライナ停戦戦略」を提言している³。

「トランプ氏という『劇薬』を使ってでもこの戦争は止めた方がいい。そうでなければ停戦のきっかけを失い、長期にわたって戦争が続き、結局、ロシアが有利になる恐れがあります」

「3月にプーチン大統領が再選されると、5月に就任式があり、もしトランプ氏が出席すれば、当選後の米国の『対ウクライナ支援の停止』を打ち出すかもしれない。各国が調整しておかないと混乱を招きます」

詳しくは全文を読みたいが、興味深い思考実験ではないかと思う。ウクライナ情勢に対し、「トランプが勝つ前に手を打つ」よう各国に働きかけるべしという内容で、元 NATO 大使としては大胆な意見と言えるだろう。もちろん、侵略者であるロシアが得をする形で終わらせることはできないが、停戦に向けての条件を各国で模索すべきである、と論じている。

³ <https://digital.asahi.com/articles/ASS1M3WJBS1LUPQJ00C.html> (「トランプ氏復権に備え、ウクライナ戦争止めよ」元外交官が停戦論)

ちなみに今年のユーラシアグループ「Top 10 Risks 2024」⁴では、**第3位に「ウクライナ分割」(Partitioned Ukraine)が入っている**。本当に以下のような事態が訪れる前に、石井提案を試してみる価値があるのではないかと思う。

ウクライナは今年、事実上分割される。ウクライナと西側諸国にとっては受け入れがたい結果だが、現実となるだろう。少なくとも、ロシアは現在占領しているクリミア半島、ドネツク、ルガンスク、ザポロジエ、ヘルソンの各州（ウクライナ領土の約18%）の支配権を維持し、支配領域が変わらないまま防衛戦になっていくだろう。しかし、ロシアは現在、戦場での主導権を握っており、物的にも優位に立っている。今年さらに土地を獲得するかもしれない。**2024年は戦争の転換点となる**。ウクライナが人員の問題を解決し、兵器生産を増やし、現実的な軍事戦略を早急に立てなければ、早ければ来年にも戦争に「敗北」する可能性がある。

石井提案に対する補論として、筆者（吉崎）も短いコメントを寄せている⁵。ウクライナ停戦が「21世紀のミュンヘン協定」となり、ロシアを甘やかす結果にはならないのだが、**最後の落としどころは”Frozen Asset”の扱い**になるのではないかと想像している。

つまり経済制裁として、西側が凍結しているロシアの外貨準備3000億ドルを、いかにウクライナ復興に役立てるか、という協議がカギとなるだろう。領土問題は「ゼロサム」なので妥協が難しいけれども、カネはいろんな比率で分けることができるからである。

●迎え撃つバイデン氏の現況

今回、民主党側の予備選挙は、2月3日のSC州予備選挙が初戦ということになっている。それでもNH州は、「全米で最初に予備選挙を行う」ことを州法で定めているため、1月23日には民主党予備選も実施した。ただし、それは民主党全国委員会の認めるところとはならず、バイデン大統領の名前も投票用紙には書き込まれていなかった。

にもかかわらず、**現職大統領は63.9%の得票で1位に輝いた**。2位のディーン・フィリップス下院議員は19.6%にとどまった。これは素晴らしい結果というべきで、不満を持つ民主党員は他の候補の名前を書いて、大統領に「メッセージを送る」ことができたはずだからである。バイデン大統領としては、「賭けに勝った」形と言えるだろう。

ただしこの先を考えると不安は尽きない。今後、バイデン氏が「心変わりする」、あるいは健康問題などで出馬を取りやめた場合、果たして「代理」が間に合うのかどうか。

1968年の米大統領選挙では、ベトナム戦争の悪化を受けて現職のリンドン・ジョンソンが3月に出馬を取りやめた。夏のシカゴの党大会では、大混乱の下でヒューバート・ハンフリー副大統領を選出したが、共和党のリチャード・ニクソンに敗れてしまう。

この年はマーチン・ルーサー・キング牧師とロバート・ケネディが暗殺され、民主党にとっては最悪の年となった。**2024年は偶然にも党大会が同じシカゴで行われる**。少々、「ゲンが悪い」と感じるところである。

⁴ <https://www.eurasiagroup.net/issues/top-risks-2024>

⁵ <https://digital.asahi.com/articles/ASS1M44TOS1LUPQJ00M.html>（トランプ氏復活？ウクライナ停戦？エコノミストが語る先読みの勘所）

<海外報道ウォッチ>

ニッキー・ヘイリー候補の現在位置

(観察対象：The Economist/ WSJ/ The Washington Post)

ニューハンプシャー (NH) 州予備選の2日前、デサンティス知事が選挙戦からの撤退を宣言、同時にトランプ前大統領支持を明らかにした。1月15日のアイオワ (IA) 州党员集会でトランプ氏 (51%) に 30p 差をつけられ、戦意を喪失した模様。これで共和党内で残る候補者はニッキー・ヘイリー元国連大使のみ。彼女に残された可能性はいかばかりか。

まずは1月21日付のThe Economist誌から。"How does Ron DeSantis dropping out change the Republican primary?" (デサンティスの撤退は共和党予備選をどう変える?)⁶。

- * デサンティスの選挙戦は、開始時と同様に X で終わった。最後の自己破壊衝動として彼はトランプ支持を表明した。何か月もトランプに苛められてきたというのに。
- * 残るヘイリー候補が NH 州に賭けるのは正しい。無党派、穏健派、大卒層が多いからだ。彼女が同州で使った広告費はトランプ氏の2倍、デサンティス氏の3.5倍もある。
- * 同州のオープンプライマリー制により、無党派の有権者も投票できることが彼女の強み。今回、民主党全国委員会は最初の予備選をサウスカロライナ (SC) 州と決定し、NH 州の投票は正式に承認されておらず、バイデン氏の名前も登録されていない。これは彼女にはラッキーなことで、NH 州の無党派層は 15p 差で彼女を支持している。
- * しかし、それだけでは指名を獲得することはできない。ヘイリー支持者の約半数は反トランプ票だが、トランプ支持者の 93% はトランプを勝たせようとしているのだ。

米大統領選において、序盤戦の IA と NH 州は死活的に重要である。いずれも小さな州だが、ここで勢いを得た候補がしばしば勝利を得る。民主党は IA 州での好勝負が多く (カーター、オバマ)、共和党は NH 州が踏み台になることが多い (ブッシュ父、マッケイン)。IA 州に賭けたデサンティス氏は撤退し、ヘイリー氏は NH 州に賭けている。ただし彼女も、ここで勝利した場合でも「その先」へのシナリオを描くことが難しい。

そのことを冷酷に指摘しているのが、WSJ紙の1月19日付記事である。"Nikki Haley Has a South Carolina Problem" (ヘイリー氏の試練。地元はトランプ王国)⁷なのだそう。

- * ヘイリー氏が指名を勝ち取るには、NH 州で番狂わせを演じた上で、1 か月後に地元である SC 州でトランプ氏を再び打ち負かす必要がある。
- * だが困ったことに、SC 州は「トランプ王国」だ。彼女は人生の大半を州内で過ごし、2011年から17年まで知事を務めたが、世論調査ではトランプ氏を 30p 下回っている。

⁶ <https://www.economist.com/united-states/2024/01/21/nikki-haley-is-betting-on-new-hampshires-unusual-electorate>

⁷ <https://jp.wsj.com/articles/nikki-haley-has-a-south-carolina-problem-her-home-state-is-trump-country-89b9e9b7>

- * 「地元民はヘイリー氏は好きだが、トランプのことは熱愛している」（同州選出のメイス下院議員）。彼女はティーパーティー候補として州知事になり、保守的な政策で実績を上げ、14年に再選されている。とはいえ、1カ月後に勝てる見込みは薄い。
- * SC州の共和党有権者がトランプ氏に投票するのは、同氏への訴訟が不当なものだと考えているためだ。トランプ支持者は非常に忠誠心が強いのである。

自分の地元でライバルに敗れるのは、政治家にとって屈辱的なことであろう。2016年の共和党予備選挙では、ジェブ・ブッシュ元知事は本番直前にレースを降りて被害を回避した。マルコ・ルビオ上院議員はトランプ氏を迎え撃ち、敗北して以後はパツとしない日々が続いている。トランプ氏と激突した政治家は、総じて予後不良となってしまうのだ。

彼女はまだ52歳。2024年が駄目でもまた次（2028年）がある。これはデサンティス氏（44歳）も同様。しかるにその4年間で、米国はどうなってしまうかわからない。

最後に The Washington Post 紙1月21日付オピニオン欄で、Matt Baiが語る「民主党支持者のジレンマ」をご紹介します。**”Biden or Haley? For some Democrats, it’s about who can stop Trump”**（バイデンかヘイリーか？民主党員の大義はトランプを止めること）⁸。

- * これは仮定の問題だ。ヘイリー氏が共和党で勝利し、トランプの悪夢を終わらせることができるでしょう。その場合、ホワイトハウスは共和党に戻るが、あなたはその取引に応じるだろうか。多くの民主党員は、明日にでもバイデンを犠牲にするだろう。
- * バイデンは無謀な賭けをしている。81歳の現職で、目に見えて衰え、不人気な人物が民主党にとって唯一可能な選択肢だと判断している。彼はトランプを打ち負かすことができる唯一の民主党候補であると。しかるにその逆もまた真実だ。バイデンが実際に勝てる共和党候補はトランプしか居ない。これは途方もないリスクである。
- * 一部の民主党支持者がヘイリーを応援し、バイデンを支持しないのには理由がある。彼女は女性であり、非白人であり、間違っているにしても優れた論客なのだ。
- * バイデンは見た目通りに疲れていて、「副大統領にもっと自信があれば、2期目を選ぶことはなかった」可能性もある。実はバイデンもこの取引に応じるかもしれない。

いやもう嫌味や皮肉を超えて、ピリリと辛いコラムである。ホワイトハウスでこの記事を読んだバイデン大統領は、怒り狂うのではなく一緒に大笑いしたのではないだろうか。

ニッキー・ヘイリー自身も同意見らしい。NH州での敗北宣言（ただし戦闘継続を宣言）⁹で彼女はこんな風に言っている。「バイデンが勝てる相手はこの国ではトランプだけ。共和党がトランプを指名すれば、バイデンが勝ってカーマラ・ハリス政権ができてしまう。でも、私ならバイデンに勝てる」。やんやの喝采となったことは言うまでもない。

⁸ <https://www.washingtonpost.com/opinions/2024/01/21/biden-haley-who-can-stop-trump/>

⁹ <https://www.youtube.com/watch?v=y-Muy-RHGU4>（4分19秒以降を参照）

<From the Editor> 岸田さんは怖い

最近の国内政局をこんな風にいうのだそうです。「安倍一強から岸田一狂へ」。

いやはや恐ろしい。あれだけ「宏池会 LOVE」であった岸田さんが、アッサリと派閥を解散してしまうとは。そして岸田さんの一手はドミノ倒しのように、党内の他の派閥に波及しつつある。清和会（安倍派）も志帥会（二階派）も解散方針を表明しました。今週になって森山派も解散に向かうそうです。

岸田さんは宏池会の解散について、前会長の古賀誠さんに相談はしたのでしょうか。あるいは「三頭政治」のお仲間である麻生さんや茂木さんに、事前に告げていたのだろうか。どう見てもそんな感じじゃないですよ。岸田さんは怖いもの知らず。既に「無敵の人」になっているのかもしれない。

宏池会が他の派閥と違うのは、歴史が古くて考え方も近い人たちなので、「解散しても、他の派閥に引き抜かれたりしない」という信頼感もあるのでしょうか。この点は、ほとんど「流れ解散」に近い状態の清和会や、二階さんがひとりで支えてきた志帥会との大きな違いである。「うふふふ、ウチは大丈夫だもんね～」と思っているとしたら、やっぱり岸田さんは端倪すべからざるお方であります。

他方、自前で手勢を養って派閥を拡大してきた麻生さんや、名門派閥の長になってもどこか場違いな感じが抜けない茂木さんにとっては、「困る、困るよそれは。ワシらはどうすればいいんだよ！」というところでありましょう。

しかるに自民党という政党は、もともとが派閥の緩い連合体という性質を備えている。派閥がなかったらガバナンスが機能するだろうか。例えば自民党には「副幹事長」が大勢いるけれども、あれは各派閥から若手を一人ずつ出すことになっていて、党中枢は彼らに対して「今国会はこんな風にやりますから」と説明したり、「次の人事で誰か各派閥から推薦してください」みたいな形で意思伝達しているのだそうです。いきなり派閥をなくしてしまって、組織として大丈夫なのでしょうかね。

とはいうものの、これはもう巨大な時流みたいなものでありましょう。総理総裁がこんな形で「落とし前」をつけてしまったら、外からの文句もつけにくくなってしまった。不祥事を起こした企業が、皆がアッと驚くケジメのつけ方を見せたようなもので、「本質はそこではない！」という指摘もどこか虚しく響きます。

そしていざとなったら、スッと大勢に従う融通無碍な集団が自民党である。何より総理総裁はこんな「指導力」を発揮できてしまうのだ。いやもう恐ろしい。

事前の相談抜きに派閥の解散が決められる人は、国会の解散にも躊躇しないでしょう。本日から始まった通常国会の会期末、「6月解散」はあり得ますぞ。なにしろ「一狂」体制ですから。そのときに「一驚」しても始まらない。いや、達観してしまえば、そういう政治体制も「一興」ではあるのですが。

以下のように考えてみると、「物価と賃金の好循環」「デフレからの完全脱却」を今春に確認した上で、会期末に衆院を解散して総選挙に打って出る（東京都知事選とダブル選挙に！）というシナリオは、ワンチャンス残っているように思われます。

というか、ご本人はまったく諦めてないんじゃないかなあ。

<主要政治日程>

1月26日（金）	通常国会召集
1月30日（火）	施政方針演説
2月15日（木）	2023年10-12月期GDP速報値→プラス成長を確認
2月19日（月）	日本ウクライナ復興会議
3月中旬	春闘集中回答日 →大幅賃上げを確認
3月17日（日）	自民党大会
3月末	令和6年度予算が成立
4月10日	岸田首相が国賓待遇で訪米
4月25-26日	日銀金融政策決定会合 →マイナス金利を解除？
4月28日（日）	統一補欠選挙 （衆院島根1区など）
5月中旬	24年1-3月期GDP速報値を公表→2四半期連続プラス成長を確認
5月下旬	政府が「デフレ完全脱却宣言」？
6月上旬	定額減税を実施 （1人4万円）
6月13-15日	G7サミット （伊・プーリエ）
6月23日（日）	通常国会会期末
7月3日（水）	新紙幣発行（1万円渋沢栄一、5千円津田梅子、千円北里柴三郎）
7月7日（日）	東京都知事選挙

* 次号は2月9日（金）にお届けいたします。

編集者敬白

本レポートの内容は担当者個人の見解に基づいており、双日株式会社および株式会社双日総合研究所の見解を示すものではありません。ご要望、問い合わせ等は下記までお願いします。

〒100-8691 東京都千代田区内幸町 2-1-1 飯野ビル <http://www.sojitz-soken.com/>

双日総合研究所 吉崎達彦 TEL:(03)6871-2195 FAX:(03)6871-4945

E-mail: yoshizaki.tatsuhiko@sojitz.com